

【目的】衣服の購入やコーディネートに際し、色は最も重要視される要因の一つである。そこで、からだつきや肌の色を含んだ個性のイメージと、似合う色との関連性を女子短大生において明らかにすることを目的とした。

【資料・方法】1996年秋に、女子短大生136名を対象として、10人前後のグループを作成し、各人が90cm幅×2mのカラーシーチング16色で頸から下を交互に被い、好みと似合い度の自己評価と他のグループ員の評価を5段階で行った。同時に、からだつきと肌の色ならびに個性のイメージ合計8項目の自己評価と他者評価を行った。16色の内訳は、赤、紫、青、緑、黄、橙の濃・淡の12色と紺、黄緑、白、黒である。また、測色計を用いて各人の前腕部内側と頬の色相、明度、彩度をUCS（均等空間）法で測定した。以上の合計70項目を用いて、単純集計、クロス集計、相関係数、因子分析によって検討した。なお、他者評価の得点はグループ員の平均値とした。

【結果】①好きな色は黒、白、紺であり、嫌いな色は紫、緑の濃い色である。自己評価における好きな色と似合う色との間には中程度以上の相関がみられるものの、黒、白の相関は低い。一方、自分の好きな色と他者の似合い度との相関は非常に低い。②他者評価の個性のイメージ8項目と16色の似合い度の合計24項目の因子分析により、個性のイメージと色の似合い度との関わりを表す4つの因子（累積寄与率37.6%）が抽出された。さらに、項目相互の相関係数の検討から、色白な人にパステルカラーが、賑やかで大らかな人に濃い黄や橙が、大人びた人に濃い紫、紺、黒が似合うことなどが明らかになった。③測色計の明度、彩度と「色黒－色白」の評価との間には有意な相関がみられた。